

応仁の乱



[応仁の乱_下载链接1](#)

著者:[日] 呉座勇一

出版者:中央公論新社

出版时间:2016-10-19

装帧:平装

isbn:9784121024015

室町幕府はなぜ自壊したのか一室町後期、諸大名が東西両軍に分かれ、京都市街を主戦場として戦った応仁の乱(一四六七~七七)。細川勝元、山名宗全という時の実力者の対立に、将軍後継問題や管領家畠山・斯波両氏の家督争いが絡んで起きたとされる。戦国乱世の序曲とも評されるが、高い知名度とは対照的に、実態は十分知られていない。いかなる原因で勃発し、どう終結に至ったか。なぜあれほど長期化したのか。日本史上屈指の大乱を読み解く意欲作。

作者介绍:

呉座 勇一（ござ ゆういち、1980年 - ）は、日本史学者。国際日本文化研究センター助教。東京都生まれ。海城高等学校、2003年東京大学文学部国史学科卒業。2008年同大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。2011年「日本中世の地域社会における集団統合原理の研究 領主の一揆を中心として」で文学博士。東京大学人文社会系研究科研究員を経て、2016年10月より現職。『戦争の日本中世史 「下剋上」は本当にあったのか』で第12回角川財団学芸賞受賞。

目録: はじめに

第一章 畿内の火薬庫、大和

1 興福寺と大和 / 2 動乱の大和 / 3 経覚の栄光と没落

第二章 応仁の乱への道

1 戦う経覚 / 2 畠山氏の分裂 / 3 諸大名の合従連衡

第三章 大乱勃発

1 クーデターの応酬 / 2 短期決戦戦略の破綻 / 3 戦法の変化

第四章 応仁の乱と興福寺

1 寺務経覚の献身 / 2 越前の状況 / 3 経覚と尋尊 / 4 乱中の遊芸

第五章 衆徒・国民の苦闘

1 中世都市奈良 / 2 大乱の転換点 / 3 古市胤栄の悲劇

第六章 大乱終結

1 厭戦気分の蔓延 / 2 うやむやの終戦 / 3 それからの大和

第七章 乱後の室町幕府

1 幕府政治の再建 / 2 細川政元と山城国一揆 / 3 孤立する将軍 / 4 室町幕府の落日

終章 応仁の乱が残したもの

主要参考文献

あとがき

関係略年表

人名索引

・ ・ ・ ・ ・ ([收起](#))

[応仁の乱_ダウンロード1](#)

标签

日本史

日本中世

历史

日语

日本

2016

近需

日文

评论

这书能火 确实有他独到之处 本书并不从传统的政治史角度来写应仁之乱 而是使用了微观史学式的写法 把着眼点放在了大和国兴福寺（用吴座氏的话说，是个“没有经历应仁之乱的地方”） 上 内容也包括了都市史、文化史等诸多方面 要了解日本中世社会是什么样的 这本书的确很好 而且易读

前两年买了这本，觉得没兴趣一直吃灰，最近网红了赶紧一读。我没兴趣的原因，和这段历史非常“不人气”的理由一样，应仁之乱的历史没有多少理想化的空隙，这种缺乏“英雄”的历史不符合大众读史的需求。然而读下来却感到这段历史或许才是“最人性”的，且不说夫妻吵架父子不和是多么熟悉的场景，每个人行动背后的理由都十分现实，没有英雄的历史，却更有亲近感。另，足利义尚的“出家秀”真的很好笑，大家都很喜欢用出家表示不满呢

拜读网红大作(o^^o)

先不评价内容，就从宣传和媒体效应来说，这本书也算掀起新一波日本中世史研究浪潮的力作了。

以小见大的典范。只是自己日文太烂，翻字典读太费力。

该书并不采取“面面俱到”的流水账写法，而是从奈良兴福寺的两位头面人物经寻和寻尊和其属下的“众徒”、“国民”们的视角将大乱的始末娓娓道来，本人还是从该书处学到了不少关于中世奈良和兴福寺滴基础姿势。

[応仁の乱_下载链接1](#)

书评

近年日本中世史研究的現象級之作。譯者康昊的上一本譯作是武田鏡村《石山本願寺之戰》，他翻譯著作的脈絡大抵是探討寺院社會影響的下降折射的時代潮流。作者在後記提到本書的構想緣自2014年一戰爆發百年紀念的思考。細川勝元和山名宗全的矛盾並非緣源流長，文正政變中兩人還聯...

说起古代的日本，我们可能首先浮现出的是《源氏物语》里面，优雅端庄的贵妇人和繁盛华丽的平安京，但是平安时代并非一个英雄的时代，那是文化的时代。如果想要去感受古代日本的动荡纷乱之中的历史魅力，我们需要来到室町幕府和德川幕府之间的战国时代。战国时代是日本最为血...

[応仁の乱_下载链接1](#)